

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上である。	一人一人の生徒が、達成感や自己肯定感を得られるように、授業や学校行事を進める。	A	生徒B 保護者A	A	コースの特徴をもとにICT機器を効果的に活用し、言語活動や対話を重視し、生徒にとって分かりやすい授業を継続的に実施し、生徒が主体的に学習に取り組めるように努めた。基本的な学習事項の習得、定着に向けて、1年次は、国語・数学・英語において習熟度別指導、2・3年次は、コース別の少人数指導を実践し、基礎学力の向上及び専門性を高めた。地域学習や行事については内容の見直しを行い、昨年と同様な良い成果を挙げることができた。生徒の取組状況は各学年ともに前向きであった。今後も言語活動の充実を図るとともに、分かりやすい授業の実践や生徒の実態にあった教育活動を行っていく。また生徒自ら学校が好きだと思う層を増やしていけるよう教育活動を通して検討していく。習熟度別や少人数制の指導の特徴を活かし、今後も粘り強く進めていく。落ち着いた学習環境を維持し、生徒たちの学力向上のため、さらなる授業改善に努める。地域学習や行事の内容についての工夫をさらに進め、生徒がより意欲的な姿勢で取り組めるよう事前・事後指導に努力する。	肯定的に捉えている生徒が年々増えてきているのは良い傾向にあるものの、より学校が好きだと思うような取り組みを要望する。日々の授業では、きめ細かく丁寧な指導に生徒も満足しているようで良好である。授業参観をしてみても、先生側からの発問といい、生徒の進捗状況を把握した上で授業を進めているあたり、先生方が丁寧に対応していることが伺えた。発表会では、地域学習の研究のことが良くまとめられていて良い発表だった。
		②習熟度別や少人数制の授業形態に満足している生徒が70%以上である。	学習内容の効果的な定着が図れる授業の展開と学習に集中できる環境づくりを行う。	A	生徒A 保護者A	A		
		③「総合的な探究の時間」や学年行事等に、意欲的に取り組んだ生徒が70%以上である。	「総合的な探究の時間」「課題研究」、学年別体験学習・講演会等の機会に地域の方を講師として交流を図るとともに、地域に対する視野を広げる活動を推進する。	A	生徒A 保護者A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④「学び直し学習」や「学び合い学習」を取り入れた授業がわかりやすいと考えている生徒が70%以上である。	教員相互の授業参観や研修を重ね、授業改善に努める。また、生徒の学習状況のみと、情報の共有化を図る。	A	生徒A 保護者A	A	本校の特徴である習熟度別指導や少人数指導、言語活動の充実が図られるよう場面を設定しながら対応してきた。特に、個々の生徒の学習状況に応じた個別の支援を行い、学習意欲の向上を図り、多様な生徒への対応として授業全体の中に一人一人の到達度に応じた「みどり」を取り入れている。また、コースの特色を生かした授業を工夫するとともに、進路に応じた対策として個別の面接練習や小論文の指導など、個に応じた実践してきた。生徒に確かな学力を身につけさせる前提として全教職員が共通理解のもと、授業規律の確保に努めている。その甲斐あって生徒の授業態度はとても良好である。今後も観点別評価をもとに授業展開するとともに、教師間での情報を共有し生徒の学習意欲を向上につなげていく。授業での分離命令の徹底や授業中のマナー違反を見逃さない体制は今後も継続していく。生徒には将来に向け、学力を身につけることの大切さを引き続き伝えていく。一斉授業では補えない学習の遅れや定期考査に対応するため、学年・教科で協力のもと、放課後の時間を利用して個別指導に取り組み、良い成果になって現れている。	授業をはじめ、日常において個別対応がしっかりとできており、良好であると思われる。昨年よりもさらに評価が高くなっており、良い成果となって現れていることが伺える。資格取得やコース全体での体制整備、生徒への柔軟な対応が良い評価になっている。少人数指導の良さを活かし、個々の生徒に対して必要な支援を行っているのとても良好であると思われる。今後も引き続き取り組んで欲しい。
		⑤多様な進路に対応した学習が役立っていると評価している生徒が70%以上である。	学習習慣の確立や資格取得の重要性を保護者にも理解してもらい、積極的な取組を促す。	A	生徒A 保護者A	A		
	⑥授業に真面目に取り組んでいると自己評価している生徒が70%以上である。	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践する。	A	生徒A 保護者A	A			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧年3回以上の面談指導を行い、面談が役立ったと感じている生徒が70%以上である。	学期に1回担任との面談週間、スクールカウンセラーによる面談日を設け、生徒の変化に即応した相談・支援体制を整える。	A	生徒A 保護者A	A	面談週間を含め、学校生活全般において声かけを実践し、不安を抱える生徒への対応に努めた。全職員で情報の共有化を図るとともに、スクールカウンセラーや外部機関と連携し対応してきた。いじめが疑われる事案は速やかに対応委員会に報告され、組織的に対応できた。生徒会による年間を通じた「あいさつ運動」を実践し、学校全体で「いじめ撲滅」に取り組むメッセージを日々伝えてきた。『学校いじめ防止基本方針』について生徒や保護者がきちんと認識できているのは、いじめを防止する下地はできていると思われる。長期欠席の生徒や遅刻の多い生徒への対応では、生徒への粘り強い指導とともに、保護者への連絡を密に行い、スクールカウンセラーへ相談するなどの連携を図り対応してきた。多くの生徒がルールを遵守した学校生活を送っている。普段の生徒の変化を捉え、面談週間に限らず全職員による学校生活全ての場面で生徒の変化に気を配りながら、こちらからの声かけを継続していく。またスクールカウンセラーや外部機関との連携を密にし、生徒理解を深める研修なども実践していく。いじめ防止に関する機会を増やすとともに、生徒の多様性を認めていく場面を通じて、いじめに繋がらないように生徒の心を育てていく。またアンケートや面談等による情報収集のさらなる徹底、綿密な職員間の情報共有を行い、学校全体で早期発見、早期解決に向けて今後も努めていく。特に長期欠席する生徒には保護者との連携を密にするとともに、スクールカウンセラーや外部機関との相談体制を強化することで対応を図っていく。進路との関連を強く意識づけ、生徒の規範意識をさらなる向上、授業規律の徹底、日頃の声かけなどを根気良く行っていく。	学校における相談、支援体制が整っていることが伺え、良好であるものの、日常生活における相談する機会がさらにあることを要望する。いじめ防止に関しては、生徒・保護者にとって最も神経質になるところであるため、厳しい評価になると思うが、いじめ防止に向けてより一層注意を向け取り組んで頂くことを要望する。生徒一人一人がルールを守っていこうとする姿勢が伺え、落ち着いた学校生活が送られていることも感じられ概ね良好である。今後も継続した指導を望む。
		⑨学校はいじめの防止と早期発見を積極的に進めていると感じている生徒が85%以上である。	アンケートや面談の機会に限らず、生徒からの申し出や情報に対応できるよう、いじめ対策委員会を中心として組織的に取り組む。また、生徒会を中心に登校時の挨拶運動を実施する。	A	生徒B 保護者B	A		
	⑩「学校は『学校いじめ防止基本方針』について、生徒に説明している」と認識している生徒が85%以上である。	『学校いじめ防止基本方針』について、生徒へ丁寧に説明するとともに、生徒が認識できるように実施する。	A	生徒A 保護者A	A			
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	11 欠席率5%以下、遅刻率3%以下である。	⑪長期欠席の生徒には、保護者との連携を密にし、スクールカウンセラーとの相談体制を強化して早期に対応できるようにする。遅刻指導にも継続して実施する。	長期欠席の生徒には、保護者との連携を密にし、スクールカウンセラーとの相談体制を強化して早期に対応できるようにする。遅刻指導にも継続して実施する。	A	生徒A 保護者A	A	『進路ファイル(キャリアパスポート)』を活用することで、学期における目標・活動・ふりかえりの機会とし、進路行事の記録も保管し、次年度への指導につなげる機会とした。進路意識の向上や進路実現に向け、進路指導部と学年で連携し、時には外部との連携を図ることにより弾力的な指導を行うことができた。生徒たちは意欲をもって取り組んでいた。今度も進路に関する行事を取り入れることで進路への意識を向上させていくとともに、『進路ファイル(キャリアパスポート)』の活用も引き続き実施していきたい。3年生はもちろん、1・2年生も日常生活の中で卒業後の進路を考え、準備を積み重ね、成果に繋がれるように、学年、教務部、生徒指導部とも連携して進路指導にあたっていく。	
		⑫本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。	挨拶運動時に声かけ指導を継続して実施する。さらに定期的な服装頭髪指導を行い、基本的な生活習慣の確立を図る。	A	生徒A 保護者A	A		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬進路ファイル(含キャリアパスポート)に前向きに取り組む、進路関連行事に意欲的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	進路等に関する記録を進路ファイルに保管させることにより、生徒の進路意識を高め、将来の進路選択に役立たせる。各学期ごとに進路行事を行い、生徒の進路に対する興味・関心を引き出す	A	生徒A 保護者A	A	『進路ファイル(キャリアパスポート)』を活用しながらきめ細かな進路指導をしていることが伺える。また、進路に関する行事が豊富に計画・実践され、進路指導を念頭に日々の学習指導には高い評価を感じている。社会情勢の変化は生徒の進路に大きく影響してくるので、家庭での話し合いが増える手がかかりとなる情報があるのはとても良いと思われる。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑭「将来の職業」や「卒業後の進路」について前向きに考え、家庭で一度でも進路について話したことがある生徒が70%以上である。	進路ファイルを活用し、毎月、進路学習の時間を設け、取り組ませ、将来についての意欲を喚起する。『進路のてびき』を家庭用にも配布し、生徒と保護者で進路に対する共通認識を深めてもらうよう働きかける。	A	生徒A 保護者A		A
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。	WEBページや学校通信、電子メール等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、授業を一般公開していく。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。	A	保護者A	A	WEBページの更新が以前に増して最新のものが載せてあるため、学校の様子が外部からも知る機会が増えており、とても良好である。PTA活動ではコロナの警戒度が下がったことから、コロナ前の活動が少しずつ実施されるようになってきているのは有り難い。	
		⑯PTA関係行事への保護者の参加が40%以上である。	定期的なPTA運営委員会を開催し、現状に応じた対応策を検討していく。	A	保護者A	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑰ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	授業評価アンケートの活用や教員相互の授業参観及び校内研修を実施し、授業改善を図る。	A	生徒A	A	教員相互の授業参観や研修を行い、ICT機器を効果的に活用する授業がさらに増えてきた。またICT機器を活用したWEBアンケートや通知等について、生徒・保護者に必要な情報をできるだけスピーディーかつ分かり易く発信することができた。教員相互の授業参観や研修を通じて得た方法で使えものは随時取り入れるとともに、直接取り入れなくても何らかの手掛かりとして工夫を凝らし、ICT機器をより効果的に活用した授業を実践する。ICT機器を活用したWEBアンケートや通知等については導入しつつ、さらに通知文も併用することで漏れなく情報が行き届くように対応している。今後も生徒や保護者に必要な情報を適切に発信していく。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑱ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	通知内容や方法について見直しを行い、生徒・保護者に必要な情報を迅速かつ分かり易く発信するとともに、WEBアンケートを実施する。	A	生徒A 保護者A		A
VII 追加項目	12 地域と連携し、地域の教育力を活用していますか。	⑲「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」等の地域と連携した事業や諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。	地域の団体・施設等と連携し、「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」を積極的に推進する。	A	生徒A 保護者A	A	コロナ対応がら類への移行により、活動内容がコロナ前の状態に戻ったこともあって、地域との連携を模索しながら活動の範囲も広げることができた。地元と連携した取り組みが9年目を向かい、地域に役立つ人材育成という意味で各コースの特徴を活かし継続して取り組んでいく。	